

## 平成28年度 医療事故等発生件数

[平成28年4月1日～平成29年3月31日]

レベル	件数	代表的事例と対応策
0 及び 1	350 件	<p><b>転倒転落(164 件)</b> 夜間、トイレに行こうとして床に座っている所を発見する。 <b>【対応策】</b> 離床センサーの設置とベッドを壁寄せし、頻回に訪室する。</p> <p><b>与薬(30 件)</b> 昼食後に、昼と夕食後の薬を内服させた。 <b>【対応策】</b> 配薬 BOX から薬を準備する際は、患者に配薬する時に患者氏名・内服時間の確認を徹底する。</p> <p><b>注射(17 件)</b> 手術前の前投薬を施行せず、手術室に搬送した。 <b>【対応策】</b> 手術前チェック表を病棟で必ず確認し、看護師2人で最終チェックを行う。</p> <p><b>輸液(17 件)</b> 高カロリー輸液3号が2号で準備されていたが、認証確認で誤りが発覚した。 <b>【対応策】</b> 高カロリー輸液に用量、カロリーの違いがあることを再認識した。確認作業を慎重に行う。</p> <p><b>検査(32 件)</b> 入院当日、外来と病棟で血液培養の採血を行った。 <b>【対応策】</b> 外来と病棟間の申し送り方法のルール作りを行い、遵守していく。</p> <p><b>その他(90 件)</b> 心臓ペースメーカー挿入の患者にMRIの指示があり、確認書に許可のサインがあった。 <b>【対応策】</b> 心臓ペースメーカー患者のMRI検査は、当院で実施できないことを文書で職員に周知し、MRI確認書の様式と内容を一部変更した。</p>
2	25 件	<p><b>熱傷</b> 点滴確保が難しいため、温罨法を施行した。発赤が消退しないため、軟膏塗布した。翌日、発赤と水泡を認めた。 <b>【対応策】</b> 温罨法を行う時は医療者の皮膚に当てて温度を確認後行い、目を離さない。発赤した場合は速やかに冷却する。</p>
3	18 件	<p><b>職員の針刺等 8 件、転倒転落による骨折等 7 件、その他 4 件 誤薬</b> 違う患者の名前を呼んだら「ハイ」と返事をした為、他患者の注射を施行した。 <b>【対応策】</b> 患者と一緒に、基本スケジュールの名前を確認する。</p>
4	0	該当なし
5	0	該当なし